



前期中間考査, お疲れさまでした。準備した成果を十分に発揮することができましたか?
今号では, ベネッセ第1回出願指導WEB研究会(2020年度入試結果)の情報を基に, 2020年度入試概況と新入試の変更点についてピックアップして紹介していきたいと思ひます。

ちなみに, 2020年度入試は『2021年度の新入試において既卒生への移行措置がない』ため, 安全志向が非常に強まっている『新入試を控えた“超”安全志向』の年となりました。

(1) 2020年度入試サマリー

《国公立大は志願者数の減少。特に難関大を除く国立大で減少が顕著》

近年, 減少傾向にあった国公立大の志願者数はさらに減少した。センター試験の平均点下降などの影響で特に難関大を除く国立大で減少が顕著となった。系統別にみると文理を問わず志願者数が減少した。推薦・AO入試は募集人員, 志願者数, 合格者数ともに緩やかに増加した。

《私立大は14年ぶりに志願者数が減少特にセンター方式で減少が顕著》 《理高文低の傾向がみられ, 理工系は人気》

近年, 増加傾向が続いていた私立大の志願者数は14年ぶりに減少した。センター試験の平均点下降などの影響で特にセンター方式で減少が顕著となった。系統別では文系人気の回復傾向は止まり, 理高文低の傾向となった。特に近年, 新設や改組が相次いでいる理工系の人気が高まっている。

入学定員の厳格化による一般入試の難化を受けて, 推薦・AO入試の志願者数, 合格者数が増加した。

(2) 【新入試に向けて】大学入学共通テストの導入

昨年度までの
センター試験が
名称&内容面で変更

《数学 I Aの試験時間や英語の配点比などが変更となります》

教科	科目	試験時間		大問構成		配点	
		センター試験	共通テスト	センター試験	共通テスト	センター試験	共通テスト
国語	国語	80分	80分	大問4題	大問4題	200点	200点
数学	数学 I A	60分	70分	必答2題+選択2題	必答2題(※1)+選択2題	100点	100点
英語	英語リーディング	80分	80分	第1問 発音アクセント 第2問 文法、語句整序 + 第3問～ 文章読解	第1問～文章読解	200点	100点(※2)
	英語リスニング	30分	30分	大問4題 音声は2回読み	大問6題 1回読みも出題	50点	100点(※2)

※1 数 I Aの数 I 分野において, 日常生活や社会の事象を扱った問題が大問 1 題または中問 1 題程度出題される

※2 英語リーディングとリスニングの配点の重みづけは各大学の判断に委ねられる

大学入学センター『大学入学共通テスト導入に向けた試行調査(九テスト)(平成30年度(2018年度)実施)の結果報告』および

『令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針』をもとにベネッセ作成。大問構成は大学入試センター公表の試行調査を基準に示した。

《センター過去問と新傾向問題に慣れ, 秋から文章を読むスピードトレーニングも》

大学入試センターが示した問題作成方針に「センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ」とあるように, 共通テストはセンター試験の実績をベースに作問されます。まずは, 時間をかけてセンター過去問を解き, 質の高い「全国レベル」の問題を体感しましょう。

次に, 問題集や模試を用いて新傾向問題(複数の文章, 図表など)に取り組みましょう。できる限り多くの模試を受け, 各予備校のノウハウが詰まった新傾向問題に慣れることを推奨します。

(3) 【新入試】 大学入学共通テストに関する個別大の変更点

《英語リスニングの配点比率がセンター試験よりも高まる》

リーディング(100点満点)とリスニング(100点満点)の入試における配点重みづけは各大学の判断にゆだねられているが、既に配点比率を公表している国公立大ではリスニングの配点比率が高まる傾向にある。各大学の公式HPなどでしっかり確認しよう!

国公立大における大学入学共通テスト
英語リスニング配点比率

リスニング比率	募集単位割合
20%	52.9%
25%	16.8%
50%	22.4%
その他	7.8%

*弊社調べ。5月中旬までに確認した約1800の募集単位情報をもとに作成。

約半数の募集単位では
センター試験の配点比と同様
例：筑波大、神戸大など

約2割の募集単位では
大幅にリスニングの配点比が高まる
例：北海道大、広島大など

(4) 【新入試】 入試区分の変更

《多面的・総合的評価の拡大》

名称変更	「一般入試」 ⇒「一般選抜」	「AO入試」 ⇒「総合型選抜」	「推薦入試」 ⇒「学校推薦型選抜」
内容面での課題①	① 出題科目が1・2科目に限定されている ② 記述式がない場合も ③ 英語4技能を総合的に評価する必要あり	現行の実施要項「知識技能の習得状況に過度に重点を置いた選抜としない」と記載があるが、一部、事実上の「学力不問」となっている場合がある	現行の実施要項で「原則として学力検査を免除」とあるが、一部、事実上の「学力不問」となっている場合がある
課題①への改善点	① 教科・科目に関わるテストの出題科目の見直し ② 国語を中心とした記述式の導入・充実など作問の改善 ③ 英語4技能評価の導入 ※上記①～③は総合型選抜・学校推薦型選抜でも推奨	<ul style="list-style-type: none"> 「学力不問」につながる記載の削除 志願者本人の記載する資料（活動報告書、入学希望理由書、学修計画書）等を積極的に活用し、詳細な書類審査と丁寧な面接による評価の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「学力不問」につながる記載の削除 推薦書の中で学力の3要素の評価を必須化
内容面での課題②	特に主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の評価が不十分	特に知識・技能及び思考力・判断力・表現力の評価が不十分	
課題②への改善点	<ul style="list-style-type: none"> 調査書・志願者本人の記載する資料（エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼン、各種大会の顕彰の記録、探究的な学習の成果に関する資料・面談）等の積極的な活用 調査書等をどのように活用するかについて、各大学の募集要項に明記 	<ul style="list-style-type: none"> 調査書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法等（自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法（小論文等）、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に関わるテスト、資格・検定試験等の成績など）、又は大学入学共通テストのうち、少なくともいずれか一つの活用の必須化 	

*文部科学省「高大接続改革の実施方針等の策定について」（2017年7月）より

《新入試に向けた検討ポイントまとめ》

(1) 大学入学共通テストの導入

特に英語の変更が大きく、リーディングとリスニングの配点比の確認は必須。これまでリスニングを利用していなかった大学でも新入試から利用するケースも。

(2) 多面的・総合的評価の拡大

調査書や志望理由書、面接などの入試活用が拡大。調査書の評価は「加点」「合否ライン前後の受験性評価」などのパターンがある。ただし、入試全体に占める配点は限定的。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

入試日程の後ろ倒しや選抜方法の変更、受験会場の設置状況など例年以上に大学の発信する情報に注意していく必要となる。